

[普及事項]

新技術名：秋田県におけるリンゴ新品種「錦秋」の特性（平成22～28年）

研究機関名 果樹試験場 品種開発部、かつの果樹センター
担 当 者 松田あさみ、船山 瑞樹 他4名

[要約]

農研機構果樹茶業研究部門が育成したリンゴ新品種「錦秋」は、県南部では9月下旬から10月上旬に、県北部では10月上旬に成熟する中生種である。果皮は赤色で着色に優れ、食味は濃厚であり、本県に適応性が高い。

[普及対象範囲]

県内リンゴ生産者

[ねらい]

本県のリンゴの品種構成は「ふじ」系統が6割以上を占めており、栽培上で様々な問題を抱えている。特に、中生種では「ふじ」の枝変わりである「やたか」が主力品種となっているが、「ふじ」と交配和合性がなく、果実のつる割れや着色不良などの問題がある。このため、農研機構果樹茶業研究部門が育成した中生品種「錦秋」の本県における適応性を明らかにする。

[技術の内容・特徴]

- 1 開花期は、県北、県南地域で「ふじ」より3日遅い（表1、2）。
- 2 S遺伝子型は、S3S7で「ふじ」と交配和合性を示すが、「つがる」とは相互に不和合である。
- 3 果実の成熟期は、県南部で9月下旬から10月上旬で、県北部で10月上旬である。成熟果は濃い赤色で、サビの発生もなく外観良好である（写真1）。
- 4 県北部における果実品質は、果重が208～270gとやや小玉である。糖度は13.2～15.7%、リンゴ酸含量は0.37～0.46g/100mlで、食味は甘酸適和である（表3）。
- 5 県南部における果実品質は、果重が255～344g、糖度は14.0～15.4%、リンゴ酸含量は0.36～0.41g/100mlで、食味は甘酸適和でかつ食味濃厚である（表4）。
- 6 短果枝の着生は少～中で、枝がやや出にくい。

[成果の活用上の留意点]

- 1 樹勢が強いと枝が出にくいため、適樹勢となるよう管理する。

[具体的なデータ等]

表1 県北部における「錦秋」と主要品種の初期生態

品種	樹齢/台木	発芽	開花	満開
錦秋	8年/マルハカイトウ(高)	4月14日	5月15日	5月18日
つがる	14年/M.9/マルハカイトウ	4月10日	5月13日	5月18日
ふじ	33年/M.26/マルハカイトウ	4月10日	5月12日	5月17日

※平成25、26、28年の3か年平均(かつの果樹センター)

※樹齢は平成28年時点、(高)は高接ぎ

表2 県南部における「錦秋」と主要品種の初期生態

品種	樹齢/台木	発芽	開花	満開
錦秋	7年/M.9/マルハカイトウ	4月6日	5月8日	5月11日
つがる	34年/CG.80	4月2日	5月4日	5月8日
王林	38年/G.D/MM.106(高)	4月3日	5月2日	5月7日
ふじ	38年/マルハカイトウ	4月5日	5月5日	5月9日

※平成25～28年の4か年平均(果樹試験場本場)

※樹齢は平成28年時点、(高)は高接ぎ

表3 県北部における「錦秋」の果実品質(かつの果樹センター)

調査年	収穫日	果重 (g)	硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	リンゴ酸 (g/100ml)	デンプン ² (指数)
平成25年	10月11日	267	14.0	15.0	0.46	0.0
平成26年	10月9日	232	13.1	15.7	0.37	1.4
平成27年	10月1日	208	13.3	13.4	0.41	1.1
平成28年	10月4日	270	13.3	13.2	0.43	1.2

²: デンプンはヨードカリ反応による指数(0:なし、1:少～5:多)

表4 県南部における「錦秋」の果実品質(果樹試験場本場)

調査年	収穫日	果重 (g)	硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	リンゴ酸 (g/100ml)	デンプン ² (指数)
平成25年	10月3日	255	13.4	15.4	0.41	1.9
平成26年	9月27日	344	13.2	15.4	0.37	2.1
平成28年	9月20日	334	13.5	14.0	0.36	2.2

²: 表3に同じ

※平成27年は台風により落果したためデータはなし



写真1 「錦秋」

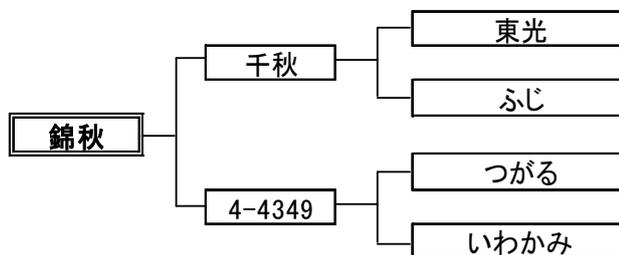


図1 「錦秋」の系統図

[発表論文等]

なし